

校庭での遊びの工夫

足利市立山前小学校

1. 研究課題

自分達で安全性を確かめ合いながら
積極的に遊べる児童の育成

2. 課題設定の理由

本校は、児童数が955名という大規模校である。しかし、児童数の割には、校庭があまり広くないし、また、固定施設も少ない。そのため、休み時間に大勢の児童が自由に遊ぶと、安全性という面でやや問題がある。

このような実情から、休み時間の校庭利用については、「山前小の決まり」の中で「ボールはけらない。」「バットは降らない。」「固いボールは使用しない。」などの決まりがある。児童は、このような決まりの中で、校庭を利用し遊んでいたことになる。

ところが、今年度の児童会総会で、「児童からのお願い」というところで、「休み時間にボールをけって遊びたい。」「サッカーをやらせてほしい。」という提案が出された。このような意見をもっていた児童は一人ではなかった。そこで、代表委員会で話し合っていくことに決定した。

児童の遊びとは、本来自由なものである。しかし、学校としては、ある程度危険が予測される遊びについては、学校の決まりの中で児童の遊びの内容を規制しているのが現状である。本来自由であるべきものが、学校の考え方で規制されているわけであるから、「休み時間にボールをけって遊びたい。」「サッカーをやらせてほしい。」という児童の願いは、当然の願いとして我々は受け止めていかなければならない。

ボール遊びについては、特に上学年に関わる問題であるが、同じような問題が、固定施設を利用して遊んでいる下学年にもある。例えば、固定施設が少ないために思うように遊べないということや、固定施設を利用して遊ぶにしても、不注意な使い方をするのがが多いということなどである。

そこで、「自分達で安全性を確かめ合いながら積極的に遊べる児童の育成」という研究課題を設定することにした。大きなのがをしないで、みんなが楽しく遊べるようにするには、どうしたらよいかを自由な遊びの体験を通して、児童自身に気付かせ、積極的に遊べる児童を育成したいと考えたわけである。児童の遊びの体験を通しての変容が、我々自身が学校の決まりを見直していく機会にもなるはずである。

3. 学校課題とのかかわり

(1) 「個に着目した指導」とのかかわり

本校では、すべての教育活動の場において、「一人一人の児童を認め励ます指導」を重点目標にかけ取り組んでいる。それを達成するために、児童の実態をしっかりつかみ、適切な指導をしてきている。

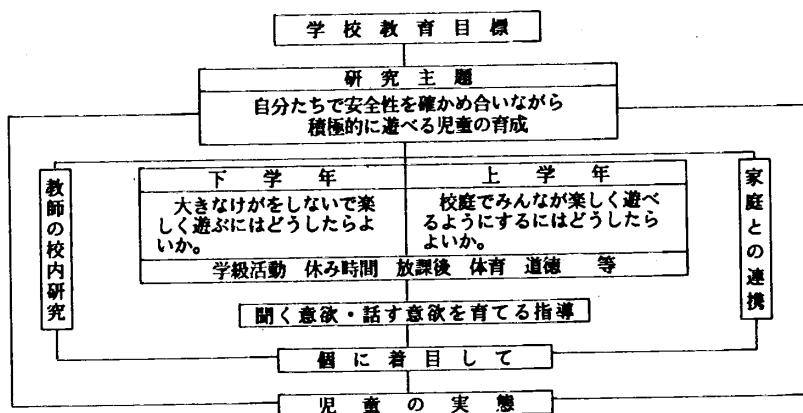
本研究においても、「けがをする子」「けがをさせる子」「けがをしない子（遊ばない子・よく遊ぶ子）」という3つの視点を設け、一人一人に目を向けてきた。その上で特に指導を要すると思われる児童を「配慮児」として選び、遊びの実態、安全への考え方を通して観察や指導を進めてきた。（詳細は「指導の実際」に載せてある。）

(2) 「聞く意欲・話す意欲を育てる指導」とのかかわり

本校では、「聞く意欲・話す意欲を育てる指導」を平成2年度の学校課題として、研究を進めてきた。低・中・高学年それぞれに「目指す児童像」を求め、全教育活動を通して具体的な手立てを考え、実践し、課題に迫ろうとしてきた。

本研究では、「学級活動」を中心とした話し合い活動が研究解決のために重要になってくる。そこで、活発な話し合いができるような手立てを講じて指導するよう心がけてきた。

4. 研究推進構想



○教師の研究

- ・本校児童の遊びの実態と課題の把握
- 遊び方調査N01 構造物に伴う危険
- 遊び方調査N02 遊びの傾向と問題点
- ・「校庭自由遊び」を通しての研究
- ・研究授業を通しての研究
- ・遊び方の指導の工夫

○児童の実態

- ・観察による調査
- 校庭自由遊び（3回）
- ・アンケートによる調査
- 学級担任の見方
- 児童の意識調査
- ・平成元・2年度学校災害報告

○家庭との連携

- ・山前小通信
- ・学年だより
- ・学年部会
- ・学級通信
- ・連絡ノート

5. 研究実践

(1) 研究経過

月	児童の活動	教師の活動				
4		<ul style="list-style-type: none"> ○ 校庭の使い方に関する「山前小のきまり」の再検討について話し合う。 ○ 児童の遊び方調査 (遊びの実態と問題点をつかむ。) 				
5	<p>★ 児童会総会</p> <p>「休み時間、ボールをけりたい」という意見が出される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総会での児童の意見についてどう取り扱うか話し合い、「自由遊び」を試行することを決める。 				
6	<p>★ 校庭での自由遊び (1回目)</p> <p>※ 1/2 学級活動</p> <p>★ 校庭での自由遊び (2回目)</p> <p>※ 1/2 学級活動</p> <p>★ 校庭での自由遊び (3回目)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">遊びの様子</td> <td style="padding: 5px;">アンケート</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">児童の感想</td> <td style="padding: 5px;">教師の観察</td> </tr> </table> <p>(問題点を話し合う。)</p>	遊びの様子	アンケート	児童の感想	教師の観察
遊びの様子	アンケート					
児童の感想	教師の観察					
7	※ 学級活動 (下学年) 大きなけがをしないで楽しく遊ぶには (上學年) 校庭でみんなが楽しく遊ぶには					
10		<ul style="list-style-type: none"> ○ 校庭での遊び方について話し合い方向を決める。 				
11	<p>★ 願いが実現</p> <p>休み時間にボールをけって遊ぶことができる。</p>					

(2) 児童の実態とその指導

① 遊び方調査（5月）

「自分達で安全性を確かめ合いながら積極的に遊べる児童の育成」という研究課題に迫るために、まず児童が、学校生活の中で、どんな場所で、どのような遊びを好んでやるのか、また構造物に伴う危険性はないのか、さらには、遊び方の問題点はないのかという実態を把握していく必要がある。そこで、全児童を対象に実態調査を行った。

〈児童の遊び方調査①〉 1990、5月

◎よく遊ぶ ○ときどき遊ぶ △たまに遊ぶ

種 目	遊びかた			構造物に伴う危険 (要修繕を含む)	遊び方の問題点(指導を要する点)
	低	中	高		
ブランコ	◎	△	△	摩耗が激しい。交換の時期ではないか。 鎖の曲がっているものがある。 鎖が切れることがあるので注意。	・ぶつかる危険(近くで遊んでいる子、見ている子、突っ込んでくる子、順番を待つ子) ・立ち乗り、こぎすぎ、ふたり乗り、斜めこぎで隣の子やブランコとぶつかる、飛び下りる子、ブランコどうしをぶつける子。 ・手をはさむ危険。
てつぼう	◎	○	△	鉄棒が回ってしまい、すべて落ちた子がいる。	・手を離しておちる。 ・押される。 ・他の子が近付いたり、入ってくる。
ろくばく	△	△	△		・押されることがある。
ジャングルジム	△	△	△	壊れている所がある。(高) ペンキがはげている。塗り直し要。	・ボール投げをしながら乗る子。 ・上級生にどかされた。(低)
登り棒	△	△	△	ぐらぐらする。ペンキがはげて、塗料がつく。	・下で遊んでいる子がいるので、降りるときがこわい。
築山	◎	○	△	すべり台が急すぎる。小さい滑り台の最後の部分がとび出歩いて危険。	・押されることがある。石をぶつけられた。(低) ・手摺りに足を入れてけがをした子がいた。(中) ・トンネルから勢いよく飛び出してくる子がいる。(高)

種 目	遊びかた			構造物に伴う危険 (要修繕を含む)	遊び方の問題点(指導を要する点)
	低	中	高		
サッカーゴール	△	△	△	ネットが切れている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットの扱い方が乱暴、網に足を引っ掛ける子、網で遊ぶ子。 ・みんなが使うとゴールが使えない。 ・走っていてゴールに気づかずぶつかった。
バスケットボール	△	△	△	ゴールが揺れる。幅が狭い。	<ul style="list-style-type: none"> ・上に登る子がいる。 ・コートで手打ち野球をする子がいる。
アスレチック スーパーマン	△	△	△	<p>桜の木の葉が降りるときぶつかる。 綱が短く乗りにくい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピードがついて、着いたとき飛ばされる。 ・手がすべり、落ちた子がいる。 ・他の子が急に前を横切る。 ・あぶない乗り方をする子(ふたり乗りなど) ・1、2年生は禁止されているのに、乗る子もいる。
タイヤ ・すなば ・アスレチック	◎	○	△	<p>回りに石やガラスが落ちている。タイヤがすべる。地面の凹凸があり、とびづらい。 雨の次の日は水がたまっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・強く早く飛べる子と練習途上の子とに差があり、邪魔物扱いされたり存分に遊べない子がいる。
バックネット	△	△	△	破けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・登る子がいる。 ・ほとんど使わない。(低)
丸太の アスレチック	△	△	△	<p>雨が降ると滑りやすい。 木が腐って壊れかけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・突き落とされる。 ・上級生にどかされた。
そ の 他 の 体 育 小 屋 舗 装 庭	跳 び 箱 マ ット			<p>布が破れている。手を着いたとき中にもぐってしまい、危険。</p> <p>収納スペースが狭く、子供による出し入れが危険と感じるときがある。</p> <p>固く、滑りやすい。石なども多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・膝に悪い影響を与えるのでは。

〈遊び方調査②〉 1990、5月

遊びの傾向と問題点

	低学年	中学生	高学年
遊びの傾向	<p>集団での遊びはできない2~3人での固定施設を使った遊びが多い。(1年)</p> <p>体育で鉄棒やタイヤとびをすると休み時間でも同じことをする傾向がある。(1年)</p> <p>固定施設で遊ぶ傾向がある。</p> <p>ドッヂボールも盛んである。</p> <p>場所が使えないときは舗装の上であそんでいる。(2年)</p>	<p>固定施設の利用は少ない。</p> <p>男子はボール遊び、手打ち野球が多い。</p> <p>女子はドッヂボール、鉄棒など多様である。</p> <p>鉄棒の得意でない子が多いので、毎日やるよう声をかけている。だいぶ、さか上がりなどできるようになってきた。</p>	<p>けっこう工夫し、安全にも気を付けて遊んでいる。</p> <p>ドッヂボール、どろじん、手打ち野球など。</p> <p>固定施設の利用は少ない。低学年優先であり、また体が大きいせいもあるため使いづらい。</p>
問題点	<p>遊具の使い方 早く行かないと乗れない。 交替して仲良く使うことが下手である。</p> <p>1年生への思いやりに欠ける面がある。</p> <p>上級生にどかされること。</p> <p>遊具が少なく、老朽化しているものが多い。</p>	<p>ドロジンは男女ともやっているが、迷げたり追い掛けたりして裏庭の方まで行ってしまう。</p> <p>遊び場所の取り合いがある。</p> <p>部屋から出たがらない子がいる。</p> <p>低鉄棒の数が少ない。 高鉄棒はほとんど利用されていない。</p>	<p>鉄棒、登り棒などは体育でもやっており、休み時間にも練習するよう努めているが、あまりやらない。</p> <p>遊び場所が決まっていないため、混み合ったり飛び出したりして、ぶつかりあうことは危険と思う。</p> <p>校庭の使用区分の見直しが必要と思う。やっていい遊び、いけない遊び等現在少々乱れているようだ。 (児童会、児童指導、安全指導等の協力)</p> <p>回りへの配慮、けがの心配、相手への迷惑など考えないでやる子がいる。自分を大切にしない子が、やはり回りの子供への配慮に欠けているようです。</p> <p>遊具がもっとあるとよい。</p>

○下学年について

固定施設を利用した遊びが多く、集団で遊ぶことは少ない。固定施設を利用するにあたっては、早いものの勝ちという意識があり、順番が守れなかったり、危険な利用をしたりしている児童も少なくない。また、高学年児童にどかされてしまう場合もある。

○上学年について

固定施設を利用した遊びは少なく、ボールを使用した遊びが多い。場所が特定されていないので、混雑した中でぶつかり合ってしまう危険性もある。周囲で遊んでいる児童への迷惑を考えないで遊んでいる児童がいるので配慮が必要である。

② 校庭での自由遊び（実施3回・6月）

(ア) 校庭での自由遊びの計画

○目的 自分達で安全性を確かめ合いながら、積極的に述べる児童の育成を図る。

- ・校庭を自由に開放することによって、児童の遊びの実態を知る。
- ・児童の遊びの実態を知ることによって、よりよい児童の遊びについて思考していく。

○日時 第1回 校庭自由遊び 6月6日 昼休み

6月7日 昼休み

第2回 校庭自由遊び 6月18日 昼休み

6月19日 昼休み

第3回 校庭自由遊び 6月25日 昼休み

○事前指導（学級活動）

- ・児童会総会で、サッカー解禁の要望が児童の意見として出たことを確認する。（ただし、意見として、危険なので反対という意見も出た。）
- ・試行的に校庭での遊びの内容を規制しないで自由に遊べる日を設けることを知らせる。
- ・みんなが（全児童が）、楽しく遊べるようにするには、どうしたらよいかということを考えさせていく。
- ・6月6日、7日の昼休みは、自由に遊んでよいことを知らせる。

※サッカー、野球、ソフトボール（固いボール、バット、グローブ等使用可）等の解禁。

※「みんなが楽しく遊べるようにする。」ことを児童に考えさせていくことに視点をおいていくようにしていく。

○観察、指導、記録

- ・校庭自由遊びの昼休み、担当学年、学級の配慮児童を中心に、児童の遊びの実態を観察、記録する。
- ・児童への現場指導は、原則として不要とするが、特に、危険が予測される場合については、その場で指導していくようにする。
- ・帰りの会等で、学級の児童に感想を聞き、記録する。
- ・記録用紙を係まで提出する。

上記のような実施計画に基いて、特に学級の配慮児童を中心に、全職員が、校庭自由遊びの観察、指導、記録を行った。

次に掲げる資料は、6月18日、19日に実施した校庭自由遊びの観察、指導、記録の結果である。配慮児童が、どこで、どのような遊びをしていて、教師がどのように感じたかがわかるようになっている。

(イ) 結 果

〈校庭自由遊び観察結果（特に問題となる事項）〉

実施期日 H. 2. 6. 18~6. 19(昼休み)

学年	配慮児童	場 所	遊 び の 様 子	教 師 の 感 想
1	T児・S児 K. O	校舎と校庭の間の道路 ブランコ	T児→2日間ともボール遊び。クラスの児童とは遊ばない。ひまわりを2度倒したので注意した。 S児→鉄棒で「ぶたのまるやき」をやる。学級の友達と綱引や電車ごっこをやる。 ボールを持って来ましたが、誰も遊ぶ相手がいなかった。A児とブランコを交代でやっていた。	T児→教室では、元気があり目立っているが、遊びとなると学級の友達と遊べない。友達づくりをしている段階であるのに、学級の友達と一緒に遊べないのは問題である。 いたずらやちょっとが多い児童だが、今日は、A児と仲良く遊んでいた。
2	T. S K. T	東非常階段付近 アスレチック内	トカゲを捕まえて、通りがかりの低学年の児童につけて書かしていた。ロータリーで、他の児童がローラースケートをしているのを見ていた。 スーパーマン、ボール遊びをしていた。6年生のキャッチボールの間を通り抜けることもあったが、周りの様子に気を配っていた。	教室では、人目をはばからず一人で遊ぶことが多いのに、外では、消極的な遊びをする。 遊びに夢中になると、他のものは、目に入らない。間隔をあけた6年生のキャッチボールが気になった。配慮が必要。ボールは、数回人にぶつかっていた。高学年が、ボール投げながら入ってくることもあり、かなり危険だ。
3	T. F T.S T.N	校庭 校庭東1年校舎前	野球（プラスチックバット使用） ドッヂボールを使っての手打ち野球。ボールを夢中で追いかけ、他の児童が遊んでいる所へボールがいってしまうこともあった。	以前、バットを友達にぶつけたことがあったので今回は、注意をしていたようだ。低学年の児童が、高学年の児童の間をぬって走り回っているので危険。校庭を分けた方がよい。 打ったボールがどこへ飛んでいくかわからないという点で危険。人にぶつかるということを打つ時や捕る時は、考えていない。場所を選ぶ必要がある。ルールのことも考えさせたい。

学年	配慮児童	場 所	遊びの様子	教師の感想
4	M. W	校庭	前回ボール投げをしている時に、上級生の投げた野球のボールにぶつかった。今回は、何をしてよいかわからない様子だったので、中当てに誘って一緒に遊んだ。 ポコペン。とても、楽しそうに走り回っていた。道具なしで、周りに危険もなかった。	自分から友達の中に入っていない。遊び方を教えていきたい。
	M.K(他数人)	校庭	友達5人と遊んでいた。ジャングルジム、鬼ごっこ、ろく木、松ぼっくりなども投げていた。	どの児童も対等の立場で遊んでいた。教師の語りかけにも気軽に答えて、遊びのルールを教えてくれた。
	T. K	校庭	石投げだと思ったら、松ぼっくりだったので、特に指導はしなかった。	
5	T. Y	バックネット前	手打ち野球。集団でやっていたので、児童同士で注意し合い、勝手な言動もなく、比較的問題なく参加していた。	児童間の働きかけが行われている間は、配慮児も注意をしながら楽しんでいた。児童間の働きかけが、安全に心がける習慣につながる。
	K.S (他15人)	希望の像前	1人ボールで手打ち野球。前回は固いボールでキャッチボールをしていた。	配慮児については、特に問題なし。前回より道具を持ってくる児童が減った。持ってきてても安全なものが多くなかった。安全に対する意識が高まってきていくように思う。
	I. S	西サッカーゴール	6年生とサッカーボールを使って、シュート練習をしていた。トラブルもなくよくやっていた。	自分がという気持ちを表に出し、個人プレーはうまいが、団体種目になるとうまくいかない。今日は仲がよかった。
	T.S S.S	玄関付近	T.S→ドッヂボールをしながら追いかけっこ。	前回バットや固いボールで野球をしていた児童が、今回、学校のボールを使って遊んでいた。安全面での成長はみられる。
	A. S	東サッカーゴール	S.S→ブランコで遊ぶ。 サッカーボールのPKをしていた。はずしたボールが6年生の遊びのじゃまになった。	気をつけようにも無理なところである。しかし、ボールをける遊びは、反対ではない。

学年	配慮児童	場 所	遊びの様子	教 師 の 感 想
6	T.N K.A	バスケットコート付近	体育器具庫からボールを持ち出し、投げっこを始める。かなり強く投げていたので、暴投が多い。投げっこをしている間を数人の児童が通ったが、意識して投げている様子。	前回は固いボールを使ってキャッチボールをしていて、他の児童にぶつけてしまった。多少、遊びの中にも安全に対する意識が芽生えてきたか。
	K.H (他4人)	西サッカーゴール	ゴールを使ってのシュート練習。コーナーキックからのシュート。	それたボールが他の児童にぶつかる。次第に遊ぶ範囲が広がっていく。夢中になると周囲が見えなくなる。思いっきりかけて、すごいスピード。かなり危険である。
	T.K (他4人)	サッカーゴール南	ドッヂボールを使ったあてっこ。	前回はサッカーや固いボールを使った野球は減っていた。
	T.Y (他5人)	校庭	ゴールに向かってパス、ドリブルしながらシュートしていた。	ゴール前を占領している感じで、近寄ってくる児童は少ないため、危険は少なかった。
あ お ぞ ら	全員	うさぎ小屋	うさぎ小屋で、うさぎにえさを与えて食べる様子を見て楽しんでいた。	集団の中に自分から入っていない。誘ってもらい、仲間に入れてもらえば、へたでも一緒に遊ぼうとする。でも、動物をかわいがるやさしい気持ちは、そっと伸ばしてあげたい。

③ 指導の実際

以上のような児童の実態をふまえて、本校では上学年ブロックと下学年ブロックに分かれて研究実践を進めた。以下に示す実践例は共同研究として行なってきた学級活動の、上学年ブロック6年生のもののひとつである。

第6学年 学級活動指導案

平成2年7月3日 第5校時

1. 主題名 校庭でみんなが楽しく遊ぶには

2. 主題設定の理由〈研究課題設定の理由と重複するため省略〉

3. 児童の実態

児童の遊びの実態をとらえるために、「みんなが楽しく遊べる」というただ一つの条件をつけてやりたい遊びを自由にやらせてみよう、ということで「校庭でみんなが自由に楽しく遊べる日」を設定した。6月6日～7日、18日～19日の二日続きで2回、さらに25日と合計3回実施し、その都度、児童の遊びの様子を教師が観察し、児童からはアンケートをとった。

その結果、3回とも今までの昼休みよりも校庭に出て元気に遊ぶ児童が多くなった。

1回目は、東西南北と方向を気にせずキャッチボールをする子がかなり多く見られたり校庭いっぱい使ってサッカーをする子も多かった。また、野球をしていて、プラスチック製のバットにぶつかり、軽いけがをした児童もいた。私達教師が観察していると、かなり危険と思われる遊びをしていたが、幸い大きけがはなかった。

それに比べて2回目は、遊び方がかなり上手になってきた。遊ぶ場所を考えてキャッチボールやサッカーをやっている児童が増えてきた。しかし、まだ何人かは、つい夢中になってしまい、広い範囲でサッカーをやったりボールをおもいきりけったりする児童がいた。

3回目も、2回目同様に、楽しく安全に気をつけて遊んでいたが、自分の遊びが他人に迷惑をかけていたり、危険な目に合わせていたりすることに気が付いていない児童も多かった。

児童の意識を探るために行ったアンケートとその結果は次の通りである。

校庭での遊びに関するアンケート

- ① あなたは何をして遊びましたか。
- ② 自由に遊べて、どうでしたか。
- ③ あなたはどんなことに気をつけて遊びましたか。
- ④ あぶない目にあったり、何か困ったことがおきましたか。
- ⑤ みんなで楽しく遊ぶためには、どんな約束ごとが必要だと思いましたか。

(2回目のアンケート結果) 6月18日

①遊びの種類

男 子		女 子	
・サッカー	(10)	・ビーチバレー	(11)
・手打ち野球	(9)	・三度ぶつけ	(7)
・ポール投げ	(2)	・ボール遊び	(1)
		・鉄 棒	(1)
計	21		20

② 自由に遊んだ感想

- ・楽しかった……………40人（98%）
(楽しかったが困った、危なかった12人)
 - ・いつもと同じ……………1人（2%）
 - ・つまらなかった……………0人

③ 気をつけた点

- ・じゃまをしない
 - ・迷惑をかけない
 - ・ボールをぶつけない
 - ・下級生にあてない
 - ・回りを見る

④ 危険な目や困った点

- ・ボールが飛んできて危ない、ぶつかった
 - ・人が混んでいた、動きづらい
 - ・狭い、場所がない
 - ・金属バットが危ない、ラケットにあたった

⑤ 約束ごと

- ・場所を決める、割り当てる
 - ・みんなで場所を使う
 - ・キャッチボールは危険
 - ・ボールをけらない、固いボールは禁止
 - ・危険なものは持つこない、しない

<p>こうてい がい</p> <h3>校庭での遊びについてのアンケート</h3> <p>「年、姓、名前」 A子 校庭でみんなが楽しく自由に遊んだ時のことについて教えてください。</p> <p>1. あなたは何をして遊びましたか。(遊びの名前、運んだ人名、遊びに使ったもの) ビーチボール(ペラペラ)、タオル、水筒、(トランク)</p> <p>2. 自由に遊べてどうでしたか。 とても楽しかった。たとくに、あまりで、安全な</p> <p>3. あなたはどんなことを覚悟で遊びましたか。 他の、7歳、8歳、9歳、10歳、11歳、12歳、13歳の人と一緒に遊んでいた。 4. あなたの周りにあたらしい人がいたことがありますか? いいえ、サーカーをやっている人がいて、あちこちに</p> <p>5. みんなで楽しく遊ぶ時、他の人が自分の遊びを邪魔したことがありますか? 他のことはかりでやめて、しないで、周りにいる人、他の遊びをやっている人に、よくかかわらなかった。</p>	<p>6年、姓、名前 A子</p> <p>校庭でみんなが楽しく遊ぶには 2回目の校庭でみんなが楽しく遊べるときのあなたの目標は</p> <p>(勝手)ボール投げをして、他の人のところに飞ばす (勝手)うまくて、足が歩いている人にあらんなよう、安全に実現しあって 6月18日、みんなで、人に歩くからないよう、し たが、風があり、たつて、他の人が歩 く所へいってしまってば、だ。</p> <p>6月19日、周りにいた人は少なかったので、 目標を実行することができた。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

自由遊びのアンケートから〈遊んだこと、困ったことやあぶない目にあったこと〉

自由遊びのアンケートから

「遊びのアンケートから
＜遊んだこと、困ったことやあぶない目にあったこと＞

卷之三

以上のことからもわかるように、かなりの児童が、遊ぶ場所を選んだり周囲の状況に気を配ったりして、安全に気をつけて遊ぶようになり、不注意で周りの人にけがをさせる児童はいなかった。しかし、自由に遊べて楽しい反面、校庭が混んでいて伸び伸び遊べなくなったり、常に危険を感じながら遊ばなければならないという問題が出てきた。

そこで、みんなが安全で、しかも楽しく遊べるために、今までの自分の遊び方の問題点を見つけだし、それを解決するための具体的な目当てを各自考えさせるために、学級活動の指導を行うこととした。

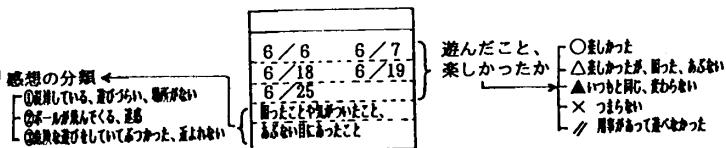
4. 本時の指導

(1) ねらい

- ・校庭でみんなが楽しく遊べるために、自分は何ができるかを考えることができる。
 - ・実践カードを活用して、積極的に遊ぼうという実践への意欲を持つことができる。

(2) 同和教育との関連

- ・校庭でみんなが楽しく遊ぶためには、自分が楽しめば良いという自己中心的な考えではなく、相手のことを思いやって仲良く遊んだり、譲り合ったりしていくことが大切であるということに気づかせたい。
 - ・自分の考えがみんなの前ではっきり話せるようにさせる。



(3) 配慮児童の抽出とその指導

A児

物を使って、一人または少人数で校舎内で遊ぶことが多かったが、少しずつ休み時間も外で体を動かして遊ぶようになってきた。

1回目の自由遊びの時は、家から水でっぽうを持ってきて、5,6人で水をかけあって、服までびしょびしょにして遊んでいた。2回目の時は、2人組で校庭の隅のへいぎわのところで、サッカーボールのけりあいをしたり、自分で作ったボールのようなものを持って遊んでいた。3回目になると、教師が与えたスポンジ製のボールが気に入ってか、校庭の真ん中で比較的多くの人数で三度ぶつけをしていた。

遊びが少しずつ積極的になってきたので、本時では多くの友達と体を動かして遊ぶことの楽しさを理解させ、周りの状況にも気を配り、何が危険なことか分かるようにさせていきたい。

B児

体を動かして遊ぶことがたいへん好きで、いつも休み時間や放課後、校庭でドッジボールやサッカーなどをしている。

自由遊びの時も、1回目から2回目まで、毎日5,6人でサッカーをして遊んでいた。1回目の初日は、今まで禁止されていたサッカーができたのでたいへん楽しかったが、翌日になると校庭が混んでいて、思いきりけず楽しくなかったと感想を書いている。2回目になると遊び方を少し工夫し、人が近くにいる時はあまり強くけらないように気をつけていた。しかし、飛んでくるドッジボールをけり返したり、固い皮のボールを使っていたりして、周りに危険を及ぼしていることには、あまり反省がない。

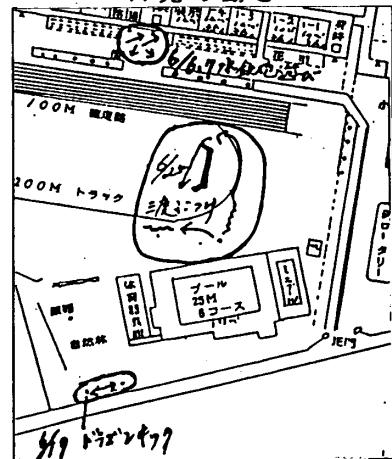
そこで、本時では、今までの遊びのなかで本人なりに工夫していたことを認めてあげながら、自分が気が付かないところで周りに迷惑をかけていたり、危険を及ぼしたりすることもあるということに気づかせていきたい。

(4) 展開（次頁）

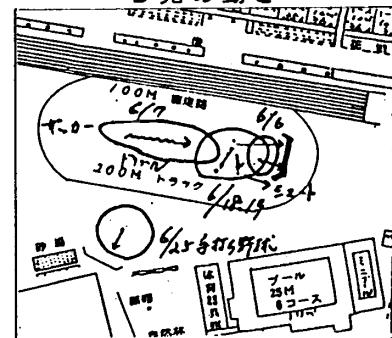
5. 事後指導

自分の目当てが記入されている実践カードを使い、次の「校庭でみんなが楽しく遊べる日」はもちろん、普段の休み時間の遊びの時も、自分の目当てが守れたかどうか自己評価させ、認め励ましながら指導を持続させていった。

A児の動き



B児の動き



四

過程	児童の活動	教師の活動	指導上の留意点	資料	時間
問題の把握	○アンケートの結果をまとめたグラフを提示する。 1. グラフについて気づいたことを発表し、問題をつかむ。	○児童が楽しんで、自分たちの体験を語る。 2. 自由遊びの様子を映したビデオを見て、自分たちの体験を思い起す。 3. 困ったり危ない目にあつた事を発表する。	・自由遊びをして楽しかったという児童が多いが多かったが、その中にには困ったり危ない目にあつた児童も少なくなかったこと気にかかる。 ・自由遊びのなかの危険なことを問題として追求していくことを確認する。	グラフ1 グラフ2	5
問題の分析	○児童をし、問題を提示する。 ・自由遊びをして困ったり危ない目にあつたのはどんなことですか。	○児童の意見をまとめて、問題点を整理してグラフを提示する。 ○児童の意見をまとめて、問題点を整理してグラフを提示する。	・ビデオで具体的な場面を見せて、自分たちの遊びの問題点を舅付けさせる。 ・ビデオに映っている児童を批判することないようにする。	ビデオ	10
問題の解決	○児童をし、課題1を提示する。 みんなが楽しく遊べるように解決策を考えよう。	○児童指導をする。 ○出されたお題について考えさせる。	・話合いの進めないグループに対しては、自分の書いたアンケートをもとにして話し合つようとする。 ・解決策が無責任に考案であつたり、相乘的なものであつたり、消極的な姿勢であつたら、遊びの状況を具体的に示したり、危険な遊びをしてる船を見せたり、本当にしたい遊びを思い出せりしして、適切な解決策が立てられるように援助指導する。 ・配達員A、Bがグループの話し合いから自分の遊びをふりかえり、自分の考えを持ってようになり聞いたりする中で、みんなが楽しく遊ぶためには多様な方法が考案されることに気づかせる。	グラフ3	15
	○児童をし、課題2を提示する。 自分も楽しく、みんなも楽しく遊ぶために、あなどはないほどのように工夫して、これから遊びますか。やりたい遊び・工夫すること	○児童指導をする。	・自分が楽しく、相手も楽しく、まわりも楽しく遊ぶためには何をすることができるかを考えて、具体的な行動の目標を立てさせる。 ・児童自身が、(A)危険な目に合はせやせやすい(C)危険タイプのうちのどれかを自覚立てさせる。 ・A児には、友達と遊ぶことの危険に気づかせるようにさせること。 ・B児には、自分が気が付かないところまで走ってしまったことがあります。それを気付かせる場合があることを気づかせる。	実践カード	10
	5. 今後の遊びの中での自分の行動のめあてを考え、実践カードに記入する。	○児童指導をする。	・具体的で継続的な目標の立て方を教える。 ・であればA児、B児にも実践カードを用意してもらう。	実践カード	10
	6. 実践カードに書いた自分のめあてを発表する。				

④ 校庭使用についての改善

1学期の間、継続して行われてきた研究実践と7月の学級活動の授業を通して、児童の遊び方に対する意識の変容が少しずつ見られるようになってきた。児童自身が、今までの自分の遊び方の問題点に気づき、それを解決するための具体的な目当てを考えられるようになってきたのである。自分ばかりでなく、遊び相手も、また、他の友達まで「みんなが楽しく、安全に」ということを念頭に置いて、遊び方の工夫が少しずつ見られるようになってきた。10月に行われた児童会球技大会へ向けてのドッジボールの練習でも、休み時間に上学年から下学年までの多くの児童が、うまく校庭を分け合いながら、しかも十分に楽しく遊んでいる姿が見られた。けがも比較的少なかったようである。

しかしながら、4月から私たちが考えてきた、休み時間の校庭使用の改善という点では、依然「山前小のきまり」による遊びの規制が残っており、児童会総会で出された「ボールをけって遊びたい」という児童の願いもかなえられないままであった。そこで、校庭使用について、職員間でも学校の決まりを見直していくべきではないかという声が高まり、そのための職員間の共通理解が不可欠になってきた。

10月24日、職員会議がもたれ、そこで校庭使用の計画作成について話し合った。その結果、児童指導主任、体育主任、児童会担当主任を中心に、さらに学年1名ずつの代表からなる、校庭使用検討委員会が作られ、原案を作成していくことになった。

検討委員会では、校庭使用についての決まりの改善ということを、児童の遊びの改善と結びつくものとしてとらえ、児童の体力作りおよび安全指導の両面から具体的な方策を考え、次の2点を改善策として提案した。

- (1) 休み時間、ボールをけってもよいこと。
- (2) 体育器具庫のボールを自由に使ってよいこと。

ただし、留意点として、(1)については、けってもよいのはゴム製のサッカーボールのみとし、校庭全面を使っての試合などはやらずに、遊ぶ場所、遊び方については安全に十分に注意した上で工夫させること。また、(2)については、もっと自由にたくさんの中のボールが使えるようにという配慮からで、その分、ボールの使い方、後片づけについては十分責任を持たせることを確認した。さらに、各学級での遊び方の指導および安全指導も隨時行うこととした。

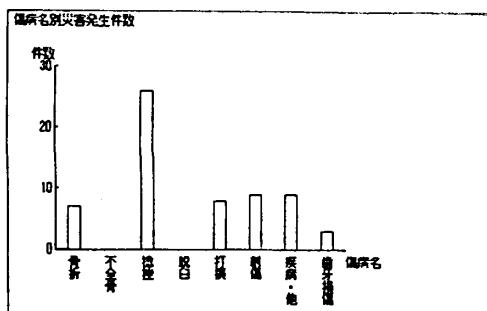
以上の改善策を11月28日の職員会議で提案し、その後実施していく中で、児童の様子について観察し、必要ならば再度検討するということで職員間の了解を得て、現在、試行という形で、ボールをけることと器具庫のボールを使うことが解禁されている。子どもたちは、この改善を大変喜んで受けとっており、休み時間もボールを使って遊ぶ子も増え、サッカーを楽しそうにしている子も多い。反面、思いきりボールをけって、周りに迷惑を与える、ボールがきちんと片付けられずに残っているなどの問題もあるが、それらも今後、教師の随時の指導と、児童自らの気付きによって、解決していくことを期待したい。

⑤ 校庭でのけがの様子（4月～12月）——保健室より——

(6) 傷病名別

傷病名別については、第6図のとおりで、捻挫が多い。

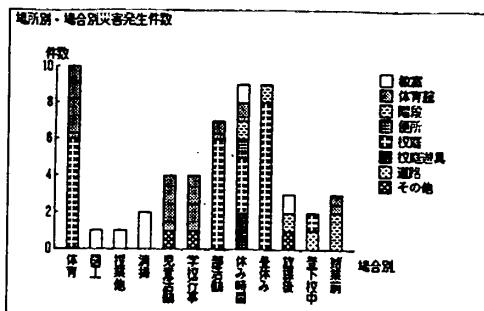
第6図



(7) 場所別・場合別

場所別・場合別については、第7図のとおりで、昼休みの校庭、部活動中の校庭および体育の時間の校庭使用での怪我が多い。

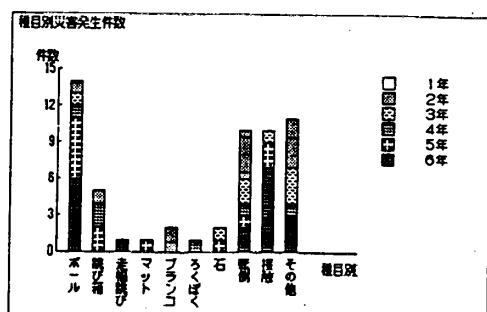
第7図



(8) 種目別

種目別については、第8図のとおりで、ボールを使用しての怪我が多い。

第8図



左記にかけたグラフは、平成2年度の学校災害報告養護教諭からの報告である。4月から12月までのものである。（紙面の都合上、平成元年度のものは、割愛）

第6図の傷病別災害発生件数から、元年度と2年度とを比較すると、骨折等の大きなけがは横ばい状態で小さなけがは少々増加の傾向であった。分析すると、校庭で遊ぶ児童が増え、その割には、小さなけがで済んでいるということである。

同じように、第7図場所別・場合別では、休み時間昼休みの災害発生状況を見ると、前年に比較して校庭でのけがが減少している。

種目別では、ボールでのけがが増加したが、「自由遊び」により、ボールを使って遊びが増加したためと推測できる。

結果として、けがの減少はきわだったものではないが、小さなけがの比率が高くなっている。遊びがさかんになり、小さなけがで済むようになったと考えられる。さらに、小さなけがも減少すればと期待する。

6. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

① 学校課題（「聞く意欲・話す意欲を高める指導」）からの成果

大規模校のかかえる悩みのひとつに、遊び場の確保があげられる。いかに広い校庭であっても、一人あたりの遊び場面積は小さく限られたものになってしまう。小さくしなければならない理由としてあげられるのが、安全性の確保である。本校でも、その安全性確保の打開策として、遊びへの規制を実施してきた。その結果、

- ア、遊びの種類の固定化
- イ、遊びの少人数化
- ウ、運動あそびの敬遠
- エ、エネルギー発散の場の減少

以上のような問題点が発生し、同時に規制によって、遊びへの制限までが生じ、児童の自然の欲求（自由に体を動かす。創造性の高まりからの様々な形のチャレンジなど）に制限が加えられた形となってしまった。

しかし、児童の自然の欲求は、「ボールをけりたい」という声となり、上記のア～エの問題点を無意識の中にも解決しようとして、自由遊びへとその声は高まっていた。そして児童会総会には、児童の希望として提案された。このことは、「自分の考えや気持ちが言える子供」をめざし、指導・研究してきた成果のひとつかも知れない。さらに、児童会の代表委員会・学級活動の時間を通して、討議や協議をくり返し、アンケート等を通して一人一人の児童の意見を取り上げ、職員会議等でも検討を加え、教師も児童の希望実現のために共通理解を図ろうとしてきた。教師が個々の意見を取り上げようと努力してきたために、より率直な意見も出て来て、児童も「より安全な校庭での遊び方」を真剣に考えようとしてきている。

② 安全性確保の努力

話し合うだけでは何の解決にも至らないという共通理解から、「自由遊びの日」を設けて実施し、遊びの様子を観察してみると、初期の段階では、様々な遊びがとび出ましたが、既成の遊び道具（水でっぽうからローラースケート・スケートボードまで）で遊んでいる姿がほとんどで、創造性を感じさせるものがほとんどなかった。その現状から、次の『自由遊びの日』までに、校庭での遊びについて学級活動等を通して、「考えさせる指導」をしてきた。その結果、規制を設けて遊んでいた時よりも意識的に、安全性確保の行動を取り始めた。自由遊び後の調査でも、はっきりと児童の反省の中にも「安全」という言葉が出てきた。自由遊びをくり返す中で、確実に児童の安全性への意識は高まってきたと考えられる。行動の中にも、「楽しく遊べる」ことを保障してくれる安全性の確保に努力をはらおうとしている姿が見られる。自分だけの楽しさから、まわりの人達の楽しさまで考えて遊ぼうとしている児童が、しだいに増えてきている。（『自由遊びの日』の観察や配慮児の行動の分析及び日常の生活の行動から）

(2) 今後の課題

「自由遊び」の回数を、さらに増やし、実際の場面での経験を通して、より安全な遊び方を考えさせていく必要がある。そして、例え『ボールをけっても』まわりの人達に当たらないですむように、まわりへも注意をはらった遊びができるようにさせるには、

① 校庭使用の工夫

② 遊びの改良

ア、ルールの工夫

イ、方法の工夫

ウ、場所の工夫

③ 遊び場所のゆずりあい

④ 安全性確保のための話し合い

などが、あらゆる場面で試みられなければならない。「自由遊び」をくり返し、

◎ より安全な遊び方

◎ より楽しい遊び方

を、児童・教師が共に追求していかなければならない。そして、規制（従来の、校庭使用のきまり）による安全の確保でなく、児童の安全性の意識の高まりによって、「本来の自由遊び」を可能にすることを期待して指導の継続を図っていきたい。

評

危険から子どもを守ってやることは、大人の大切な役目の一である。日常の生活や遊び、交通事情の中には、常に危険が伴っている。だから、子どもがそれらの中で行動していく時、危険な条件を一つでも取り除いてやることが必要である。

しかし、日常生活の中に潜む様々な危険を自ら予測し、対処していくことが子ども達に本当に身に付いているのだろうか。必要以上に守ってやるために、危険を予測する能力を養んでいるのではないか。

こうした角度から安全指導や安全管理を見直してみると、山前小学校のこの教育実践は、極めて意義のある研究である。研究課題「自分達で安全性を確かめ合いながら、積極的に遊べる児童の育成」の解決のために、次のような柱に基づいて実践を進めた。

子ども達の遊びについての実態をていねいに把握する。「自由遊びの時間」を設け、自分で安全を確かめ、積極的に遊べる場とする。この時間で起こる問題を常に、自分の問題としてとらえさせて、学級活動や児童会に返す。全職員の一人一人の問題として、取り組む等である。

日常生活の中に潜む危険を予測し、常に安全を確認し、正しい判断のもとに安全な行動ができることは、生涯体育の視点から大切な態度と能力の一つである。